

---

## 「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）のステロイドフリーを目指した治療におけるメボリズマブの有用性の検証」に関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療録の記録を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1．研究の対象となる方

2005年4月1日から2023年9月30日までにリウマチ・膠原病内科を受診し好酸球性肉芽腫性多発血管炎(EGPA)（旧：Churg Strauss 症候群（CSS）と診断されニューカラを含む治療を行なった患者さんを対象としております。

#### 2．研究の目的

好酸球性肉芽腫性多発血管炎(EGPA)（旧：Churg Strauss 症候群（CSS）は希少疾患であり治療法の確立がされていませんが、ステロイド、免疫抑制薬、分子標的治療標的（生物学的製剤）などで治療を行います。ステロイドは治療の主体となりますが様々な副作用が伴いうるため長期予後を見据えた治療においてはステロイドフリーが望まれます。国内の医学論文において、メボリズマブにより EGPA 患者の約 50%で、ステロイドフリーが可能かもしれない。（Yamane T, Hashiramoto A. Arthritis Res Ther. 2023 Jun 26;25(1):110. ）との報告がありますがまだ十分なエビデンスはありません。本研究ではメボリズマブを併用した EGPA 患者さんにおいてステロイドフリーを達成した症例について検討し、ステロイドフリーを目指した治療戦略についてエビデンスの構築を目的とします。

#### 3．研究期間

病院長の許可後～2024年10月31日

#### 4．利用または提供の開始予定日

2023年11月2日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

### 研究に用いる試料・情報について

#### 1．試料・情報の内容

## 診療録内の検査データ、診療記録

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科において、研究責任者である倉沢隆彦が、管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

### 2．試料・情報の取得方法

好酸球性肉芽腫性多発血管炎(EGPA)（旧：Churg Strauss 症候群（CSS）と診断されメボリズマズ（商品名ヌーカラ）を含む薬剤治療された患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

### 3．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 倉沢 隆彦（研究責任者）

### 4．試料・情報の管理責任者

<提供元機関> 埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

## お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 倉沢 隆彦

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3574（平日 9 時～17 時）

○研究課題名：好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）のステロイドフリーを目指した治療におけるメボリズマズの有用性の検証

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 倉沢 隆彦